



本校は「考えるを、学ぶ。」をスローガンに、学力と人間力を高め、社会に貢献する人材を育成する学校をめざしています。中学校にコース制（一貫SPコース／一貫SAコース）を導入し4年目となりました。生徒と教職員が共に成長し続け、常に進化し続ける東洋大学附属姫路中学校のさまざまな取り組みや最新情報を”参加生徒の声“を中心に「TOYO NEWS」としてお届けします。

## 能登半島 ボランティア活動レポート

## 生徒会の生徒9名が参加！

2025年8月1日(金)～3日(日)にかけて、本校の中学生徒会の生徒9名が石川県の珠洲市でボランティア活動に参加してきました。これまでに起こってきた校外での募金活動を通して集まった義援金を珠洲市長にお渡ししたり、サロン活動を通して現地の方々と交流を深めたりすることができました。以下、参加生徒のコメントです。

▶ 珠洲市の市長に募金活動で集まった義援金を渡しました。



能登の被災地では、新しく建てられた住宅に避難者が移り住むという形で長期避難が始まっていました。一方で、発災当時の様子をそのまま残しているような、壊れたままの建物がまだまだたくさんありました。1階が潰れたり豪雨によって泥だらけの家があったり、土砂崩れで山が削られていたり、道路が陥没していたり、見るに堪えないような光景があちこちにありました。そのような中でも、道中には全国から復旧作業に来ている車や、「能登がんばれ」と書かれた幕があって、見ていると心があたたまりました。また、宿泊の際、女将さんたちも私たちに対してあたたかく接してくれたり、サロン活動で出会った方々も、とてもやさしくお話してくださったりし、とても有意義な経験となりました。

須々木 遥 (2年)

能登半島でのボランティアでは、特に仮設住宅でのサロン活動が印象に残りました。サロン活動とは仮設住宅で住んでいる方々とたわいもない話をして孤独を防ぐ取り組みとして行われているものです。給食を作るおばあちゃんから折り紙の花を頂き、折り紙が心を落ちつけ人との繋がりを深める手段になっていると知りました。災害が落ちついた後、給食を食べた子どもたちが「美味しい給食をありがとう」と感謝を伝えたことや、折り紙と一緒に楽しんだお話もして頂きました。被災者の方々が困難の中でも喜びをみつけ、それを共有して楽しんでいくことから「災害に負けないぞ」という強い意志を感じました。今回の経験から、現地で見聞きしないとわからないことを沢山知りました。今後も積極的にボランティアに参加して、さらに多くのことを学びたいと思います。

島谷 美空 (3年)



▲ サロン活動の様子



◀ 能登に伝わる伝統的な祭り「キリコ祭り」の見学

## 姫路研究レポート (1年生)

## キャリアフロンティア ～ 探究 ～

姫路研究は、中学1年生が最初に取り組む探究学習です。グループに分かれ、姫路を中心とした地域の文化・歴史・企業など、自分たちで選んだテーマについて協力して調査し、現地でのインタビューなどをおこないました。各班スライドにまとめてクラス発表に挑み、代表班は学年発表もおこないました。各班、クイズを作ったり、音声や動画を流してみたりと工夫を凝らして堂々と発表することができました。

姫路研究で、私の班は5人で産業について調べる事になり、鉄鋼業とはどのようなものか日本製鉄の方々にお話をうかがうことになりました。鉄の製造過程やカーボンニュートラルの取り組みなどについて詳しいお話を聞き、製鉄所の魅力を知ることができました。訪問後、発表の準備をする際に班員と協力してスライドや原稿を制作するのが大変でした。本番前の中間発表では原稿を覚えきれいでなかったため、スムーズに進まなかったのが、覚えやすいように原稿の内容を練り直しました。発表本番では、練習通りにいかなかった部分がありましたが、班員と協力して一つのものを作り上げられたことはとても良い経験になりました。今後このような発表をする機会がある時は、より準備を重ねて臨みたいと思います。

篠原 ゆり (1年)

私たちの班では、姫路ゆかたまつりについて調査をしました。調べてみようと思ったきっかけは、姫路の中でも有名な祭りなので、ゆかたまつりのことをすでに知っている人だけでなく、知らない人にもこの祭りのことをもっと知ってほしいと思ったからです。実地調査では、姫路市役所観光コンベンション室を訪問させていただきました。実際に訪問をしてみて、姫路ゆかたまつりの開催日の決め方や、ゆかたまつりの年ごとの変化など貴重なお話を聞くことができました。この活動を通して学んだことは、疑問に感じたり分からないことがあったときに自分たちで解決策を考え、実行に移していくことが大事だということです。この地域研究で学んだことを活かして、次のキャリアフロンティアの活動に取り組みたいと思います。

内藤 優駿 (1年)



◀ 「霞城館」訪問の様子

## 甲子園応援レポート

## 春夏連続出場！～ 応援にかけつけた吹奏楽部員の声 ～

僕は甲子園という貴重な行事において、たくさんのことを学び、そして”楽しみ”ました。応援という形で野球部の皆さんを支え、吹奏楽で耳から心へ気持ちを届けました。大変だったのは、朝3時半集合の時もあれば22時に解散の日もあったことや、とにかく暑かったことです。でも、野球部の方々はこのこと比べ物にならないほどの努力をされてきたんだということを、甲子園で身に沁みて感じました。滝川第二高校の方々も応援に駆けつけて下さり、皆で甲子園球場に演奏を轟かせたことは一生忘れられません。実は、東洋が甲子園に出るまであまり野球に興味はなかったのですが、応援という形で甲子園を経験し、自分の幅を広げることができました。春夏連続で甲子園で野球部を応援できたことを誇りに思い、自分の青春のアルバムに刻みたいと思っています。

加藤 仁一朗 (3年)





# “考える”を学ぶ「キャリア・フロンティア」の取り組み

東洋大姫路の特徴的な教育プログラム「キャリア・フロンティア」では、「自ら考え、自ら選択する」ことを念頭に置いた教育に取り組み、確かな学力と豊かな人間力を身につけます。

哲学

探究 グローバル

## 哲学

### 建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」

【哲学対話】哲学対話とは、「皆と一緒に考えを深めること」を目的とした授業です。生徒たちが自由に問いを立て、その問いを共有し、それぞれの意見の「似ている点」「違う点」などを考えながら、「人生で一番大切なもの」の本質を考えます。8月4日(月)、5日(火)には、開智国際大学の西山溪先生をお招きし、哲学集中講義を開催しました。

私は初め、「哲学」と聞いて、「難しそうだな、どんな学問だろう」と思っていました。ですが、「哲学対話」という授業は、一つのテーマに対して個人個人が意見を出し合い、その考えを普段よりも、もっと深く考えるというもので、とても楽しかったです。哲学には答えがないので、相手の意見を尊重したりその意見を聞いて、また違う視点からの意見を持ちたりしているうちに、いろいろな感情や意見が次々に頭に浮かんできて、「発表したい」「話したい」という気持ちになりました。「哲学対話」は、自分自身を鍛えることもでき、人とつながることもできるので、一石二鳥だと思いました。この経験はこれからのいろいろな場面で活かせるし、自分自身を見つめることで、強い自信につながりました。

横田 成穂 (1年)



◀ 哲学集中講義の様子

【哲学エッセーコンテスト】哲学エッセーコンテストとは、中学1、2年生の生徒全員が参加するエッセーコンテストです。自分で問いを立て、その問いについて1200字以上で論述します。哲学を基礎として創立された本校において哲学行事での最大イベントとなっています。代表に選ばれた生徒2名は、東京で開催される「哲学の日」にて学びの成果を共有します。

今年の3月、東京にある東洋大学附属京北中学校で行われた「哲学の日」に参加しました。まず、体育館で哲学エッセーコンテストの受賞者たちの表彰式が行われました。それから、別室で中学生の受賞者との座談会に参加させていただきました。今までこういったイベントに参加したことはなかったため、新鮮でとても貴重な経験ができたと思います。また、このように東洋大学の附属中学校に行ったり、イベントに参加したりする機会が今後あれば、ぜひ参加してみたいと感じました。

田中 杏 (2年)



◀ 「哲学の日」の様子

## 探究

### 京都研修レポート (3年生)

探究学習として「京都の伝統」をテーマに調査している中学3年生が、5月29日(木)に京都御所・有斐斎弘道館・河村能楽堂にて研修を行いました。研修で学んだことを個人でポスターにまとめ、7月24日(木)にポスターセッションを行いました。

私は京都研究で「古文と和菓子」について調べました。きっかけは、京都研究で有斐斎弘道館を訪問したことです。実際に訪れてみて、和菓子の世界に触れることができ、とても楽しく、良い経験になりました。和菓子の美しさや職人の思いにふれるうちに、和菓子には季節や自然を大切にしている気持ちが表れていることに気づきました。これは、古文に見られる日本人の美意識とも通じるものがあり、「古文と和菓子」の関係にさらに興味がわいてきました。また、和菓子は食べる人によって感じ方が違うところが面白く、さまざまな視点から楽しめる点にも魅力を感じました。発表のときは緊張しましたが、たくさんの方が聞いてくれて嬉しかったです。私は京都研究を通して、探究する力や人に伝える力を身につけることができました。この経験を、これからの学びにも生かしていきたいです。

米本 万桜 (3年)



▲ 有斐斎弘道館での研修の様子



◀ ポスターセッションの様子

## グローバル

### フィリピンとイギリスで 英語や異文化を学ぶ!

セブ島での15日間にわたるサマーキャンプには21名の生徒が参加しました。1日7コマのマンツーマン英会話レッスンを中心に、フィールドワークやアクティビティを通じて、実践的な場で英語を使う力を身につけました。

今年の夏、セブ島へ行ってきました。セブ島は英語圏なのでもちろん学校内も英語です。教室の中では日本語を話してはダメ、話しているのは休憩中に教室を出たときだけでした。初めの頃はしんどかったですが、だんだん慣れていきました。授業は先生と一対一で行われます。一日に50分×7時間と日本の学校とあまり変わらず感覚が狂うことはありませんでした。時間ごとに教える先生と教材が変わり、どの先生も分かりやすく、自分たちが伝えたいことを一生懸命聞いてくれました。そのため、ほとんどの場合、うまく英語が使えなくても伝えられました。伝わったときの嬉しさは並のものではありません。皆さんも、自分の力で外国の人と話して、自分なりに伝えてみてください!

北野 太一 (3年)



英国の名門私立校「ラグビースクール」での語学研修は17日間にわたっておこなわれ、15名の生徒が参加しました。レベル別の英会話クラスで学びながら、毎日さまざまなアクティビティに取り組みました。

私は語学研修に参加する前は英語に関心がなく、成績も悪かったです。行くと決めてからは、そのために繰り返し問題集を解き直したり、日本人がネイティブと喋ってる動画を見たりするなど、たくさん英語に触れるようにしました。語学研修前の定期テストで、以前までは30点前後だった英語のテストの点数が、70点台にまで上がりました。現地では最初、自分の気持ちや伝えたいことが伝わるか不安でしたが、勇気を振り絞り声をかけてみると、笑顔で応えてくれました。それから、たくさんの人と交流して友達もでき、英語を少し好きになることができました。とても成長できたと思います。私はこの語学研修で「まずやってみる」の大切さを学びました。これからも自信をもってたくさん挑戦し、前に進んでいきたいと思っています。

春尾 ゆう (2年)



#### 入試関連イベントのご案内

- ◇ プレテスト報告会・第4回学校説明会 2025年11月29日(土) 10:00~12:00
- ◇ 入試直前授業見学会・個別相談会 2025年12月25日(木) 9:30~12:00
- ◇ 入試結果報告会・校舎見学会 2026年3月7日(土) 10:00~11:30



▶ 詳細はこちら

発行：東洋大学附属姫路中学校  
〒671-2201  
兵庫県姫路市書写1699  
TEL (079)266-2626 (中高共通)